

2025

KYOJO CUP
RACE REPORT

Rd.5

11.8[sat] - 9[sun]

[place] 富士スピードウェイ (静岡県小山町)

[weather] sat 晴れ・曇り / sun 雨

[spectators] 発表なし

Rd.1 MAY 10-11

Rd.2 JUL 19-20

Rd.3 AUG 16-17

Rd.4 OCT 11-12

Rd.5 NOV 08-09

FUJI SPEEDWAY



TOM'S

波乱含みだった最終戦。 斎藤愛未は3位表彰台を獲得、 バートン・ハナも6位入賞でシーズンを終える。

QUALIFYING/SPRINT

2025 KYOJO CUP Round5 が11月8日(土)・9日(日)に行われた。予選ではトップ9台がコースレコードを更新するなか、斎藤愛未はライバルに肉薄する走りで2番グリッドを獲得。一方のバートン・ハナは、接戦となった中国グループのなかで、あと一步が足りず12番手となった。

8日(土)午後に行われたスプリント(10周)では、1周目に7台が絡む多重アクシデントが発生。波乱の展開のなか、アクシデント車両の真後ろにいたハナだったが、うまく混乱を切り抜けて6番手にポジションアップ。そのままチェッカーを受けた。斎藤は3位で表彰台を獲得し、翌日のファイナルに備えた。

QUALIFYING

●天候:晴れ ●気温:13℃ ●路面温度:17℃

SPRINT

●天候:曇り ●気温:15℃ ●路面温度:17℃



FINAL

●天候:雨 ●気温:15℃ ●路面温度:16℃

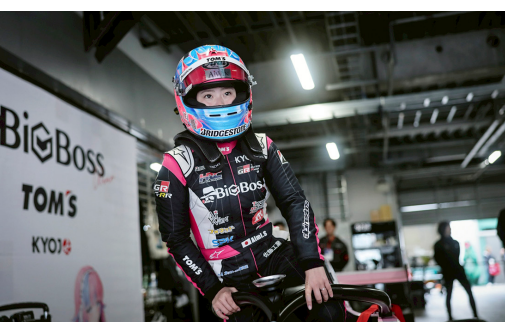
日曜日のファイナル(12周)はウェットコンディションとなり、安全のためセーフティカーの先導によりスタート、4周目から本格的なレーススタートとなった。3番グリッドからスタートした斎藤は、序盤から前を走るライバルの背後につけチャンスをうかがうが、雨で視界も悪く、なかなか仕掛けるまでには至らず、そのままチェッカーフラッグを受けた。

6番グリッドのハナも、前方車両との差を詰めるが、こちらも追い抜くことはできず、6位でフィニッシュ。これで今シーズンが終了し、斎藤は年間3位、ハナは年間9位となった。



BigBoss W TEAM TOM'S	Big Boss W TOM'S KYOJO with AIWIN KC -MG01	
1	AIMI SAITO	
	Driver 斎藤 愛未	
	予選	2位
	スプリント	3位
	ファイナル	3位
Rd.4	Qualifying	P2 / 1'44.923
	Sprint	P3 / 1'45.422
	Final	P3 / 1'55.346

BigBoss W TEAM TOM'S	Big Boss W TOM'S KYOJO KC -MG01	
37	HANA BURTON	
	Driver バートン ハナ	
	予選	12位
	スプリント	6位
	ファイナル	6位
Rd.4	Qualifying	P12 / 1'45.441
	Sprint	P6 / 1'46.416
	Final	P6 / 1'56.154



1



ドライバー 斎藤 愛未

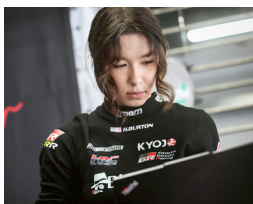
決勝は3位ということで“負けた”という結果になりました。雨はあまり得意ではないのですが、色々なことがあったなかで、最後は少し成長した自分を見せられたと思います。ただ、バトルではまだ足りない部分もあり、来年に向けてさらに成長できるところがたくさんあると感じた最終戦でした。今年はフォーミュラでの初めてのシーズンでわからないことが多いなか、ディフェンディングチャンピオンとして、なかなか良い結果を出せない1年でしたが、今年の経験を胸に刻んで来年に備えていきたいです。



監督 三浦 愛

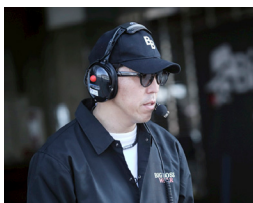
あと一步というところまで来ていますが、今回の順位が定位置になりつつあります。今年初めてフォーミュラに乗って、開幕戦の頃と比べると成長はしていますが、トップに対してあと0.3秒縮められなくて、本人のなかで課題になっています。彼女自身、いろんなプレッシャーもあったなかで、慌ただしく過ぎたシーズンだったように感じます。この最終戦の結果が彼女の今の実力なので、そこからひとつ上のステージに行くためにも、来年は取り組み方を見直さなければいけないですし、今年の経験が良い教訓になればと思います。

37



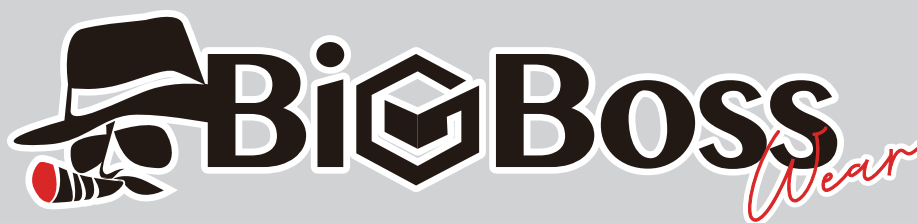
ドライバー バートン ハナ

スプリントでは順位を上げましたが、自分の力で上げた順位ではありませんでした。ファイナルでの雨に関しては、以前雨だった時に不安になったことが多かったので、今回はそうならないように、前回までのことをしっかりと復習して臨みました。ブレーキング時に前のクルマと離れないことを意識できましたが、それでもライバルを追い抜くことができなくて、また別の課題があると感じました。本当にあと少しというところばかりなので、そこに関しては悔しいです。



監督 伊藤 大輔

スプリントは荒れた展開になりましたが、その状況できちんと生き残ったところは良かったと思います。ただ、レース中に自分のペースを作るということがまだ出来ていなかったのも、そこに関しては課題が残ったと思います。ファイナルはウェット路面で難しい状況でしたが、前半は前のクルマに近い状態でリスクも伴うなか、どのようにトライしたら良かったのか、完全なものになっていなかったと思います。難しいコンディションのなか、上位で戻ってこられたのはすごく収穫です。



熊本トヨペット

カロしず
カロ-ラ静岡